

生徒が社会情勢に興味関心を持つための新聞活用のあり方

伊那市立長谷中学校 飯野雄一郎

1 実践

(1) 平成16年度の活動

①新聞の閲覧

NIE の実践を始める前年度、地元の新聞店の協力で、一定期間新聞を届けていただいた。NIE の新聞閲覧コーナーを設置し、自由に閲覧できるようにした。(後述)

②社会科の授業での活用

社会科の授業で活用できそうな気になる記事を教師がコピーし、それをもとに調査発表をした。

〔事例〕・・3年公民「新聞記事を読み、日本国憲法について考えよう」

- ・憲法の概要、憲法に対する政党の考え方、憲法改正に関わって、イラクへの自衛隊派遣

③新聞ノートの利用

班ごとに1冊スクラップノートを用意し、気になる記事を貼り付け、次の人に渡し、その人がその記事についてコメントを書き、さらに次の人に回すもの。

→班によっては、ノートが回らなかったりする中で、イラクの拉致問題、国家議員の年金未納問題などについて取り上げる班もあり、記事をもとに自分の考えを熱く書き込む生徒が見られた。

(2) 平成17年度の活動

①新聞の閲覧

NIE の新聞閲覧コーナーを設置し、自由に閲覧できるようにした。(後述)

②社会科の授業での活用

- a. 社会科の授業で活用できそうな気になる記事を教師がコピーし、それをもとに自分の考えを発表をしあった事例。

【1年生・・都道府県別の調査「長野県」・・・長野県の高原野菜栽培について】

〈進め方の概要〉

- ①信濃毎日新聞の新聞記事(2005年7月)「レタス産地 廃棄の山」を資料として提示し、高原野菜栽培をする農家の苦労などについて、意見を出し合う。

★前時までの概要

i 長野県の主な地形名、気候についてとらえる。

ii 長野県の農業の概要をつかむ。(長野県の生産量が上位の農産物、県内のどの地域でどんな農産物の栽培が盛んなのかなど)

iii 野辺山の高原野菜栽培を取り上げ、標高の低い他地域(他県)の栽培との比較をし、高冷地の気候を生かした栽培であることをつかむ

〈教師の支援など〉

- ①生徒に配布する記事には、ポイントになる箇所にあらかじめアンダーラインをひいておく。
- ②新聞記事を読ませ、概要について説明を加える。
- ③前時の学習を想起させ、普通なら高値で売れるはずのレタスが価格を下げたり、場合によっては廃棄されてしまう事実を確認し、感想や疑問点についてカードに書かせたり、発表させたりする。

《生徒の姿》

高値で取引される野辺山や塩尻市洗馬のレタスについて、資料集の資料で理解していたが、この記事を読む中で、「こんなに値段が下がってしまうのか」「苦労して育てたものが廃棄されるなんて、もったいない」と言った意見が多く出されていた

○授業を通しての感想から

1ケース16個で1500円だったものが、低温や雨不足で他地域と出荷時期が重なってしまって、400円になってしまったと書いてあり、目を引かれました。1500円だったらすごいお金になるのに1ケース400円では確かに生活に苦労するんだなあと感じた。廃棄するともったいない・・・。でも私が作っているんならただあげるのはいやだなあ・・・。【A.I】

実際結構売れていると思ったら、今年はなかなか売れないことを知った。2万ケースが捨てられると言うのがすごいと思います。出荷が例年より早かったり遅かったりすると捨てなきゃいけないのが大変だと思いました。この記事を見て、農業はすごい大変だなあと思いました。【Y.I】



段ボールにお金がかかるなら、近くの店に売るときはトレーに入れて売り、後でトレーを返してもらうと言った方法はできないのか、と思いました。【A.N】

《成果と課題》

教科書などで、その地域の概要は押さえられるが、実際の様子はどうなのかを知る方法としては、資料のようなタイムリーな新聞記事を読むことも有効であると言える。「レタスで儲かっているんだ」という事のみで終わってしまう生徒が、農家「生活できない」の見出しを見て、天候に左右されてしまい、他地域と出荷時期が重なったために安値になってしまったことで、レタスを廃棄しなければならない農業の難しさや農家の大変さについて、知ることができ、見方や考え方が深まったのではないかと思われる。また、長野県のニュースとすることで、親近感を持ちながら感想を書いた生徒も多かった。身近でタイムリーで見方や考え方を揺さぶられる資料は有効である。

【2年生・「世界と日本の人口】

〈進め方の概要〉

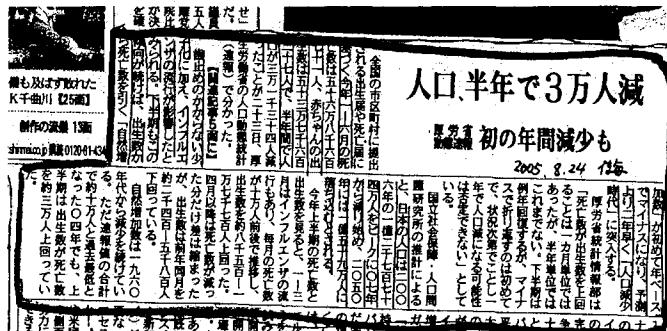
- ①地図資料「世界の人口密度」から人口の多い地域を確認する。
- ②最新の世界の人口を予想し、米国センサス局推計の人口に照らし合わせてみる。
- ③資料「世界各国の人口ピラミッド」を見て、ピラミッドの形が3つのパターンに分けられること、先進国と発展途上国ではそれぞれピラミッドの形に共通点が見られるなどを確認する。
- ④戦後から現在までの日本の人口ピラミッドから、少子高齢化が進んでいる事を読み取る。
- ⑤「今後日本の人口はどうなるだろう」と学習問題をなげかけたあと、予想をさせ、信濃毎日新聞の新聞記事（2005年8月24日）「人口、半年で3万人減～厚労省動態速報初の年間減少も～」を資料として提示し、記事から分かることを確認したり、感想をカードにまとめめる。

〈教師の支援など〉

- ①生徒に配布する記事には、ポイントになる箇所にあらかじめアンダーラインをひいておく。
- ②新聞記事を読ませ、概要について説明を加える。
- ③記事を読んで分かったことや疑問点、感想をカードにまとめさせる。

《生徒の姿》

2000年の日本の人口ピラミッドはつぼ型であることから少子高齢化社会であることを確認した後、教師が「もしこの状態が続くと、このピラミッドの形はどうなるだろう」と問い合わせると「子どもが少ない状態が統ければ、『V』の形になる。」「お年寄りの平均寿命は伸びているとは言うけど、いずれ亡くなる。子供が増えない状態なら『I』の形になる」「人間が増えなければ、日本の人口は減るんじゃないかな」と言った意見が出された。記事を提示し、予想より早く人口減少時代に突入した事を確認すると、「うそだー」「大変じゃんこれから」と言った声が聞かれた。



《成果と課題》

少子高齢化という言葉は普段からも耳にしている生徒がほとんどである。伊那市長谷（旧長谷村）はすでに高齢者の数が多く、子どもが少ないと言う状況も身をもって知っているが、日本全体にもこの傾向があることに驚いているようであった。地球全体で見れば、人口は増加の一途をたどっているが、日本をはじめとする先進国では少子高齢化が少しづつ進んでいる状況を新聞記事と人口ピラミッドの資料から改めて確認できた。新聞記事と身近に起きている現実を重ねて考えられたことは有効であった。

【3年生　・・裁判員制度】

〈進め方の概要〉

〔前時まで〕

- ①裁判制度について知る。(裁判所の種類と三審制、刑事裁判と民事裁判・・・)
 - ②模擬裁判を行って、裁判の雰囲気を味わう。(台本をもとに役割を決め、模擬裁判を行う)

〔本時〕

- ③模擬裁判の感想を発表しあい、一般の人が裁判に参加できる方法がないか考えあう。
 - ④裁判員制度について知る

毎日新聞の広告（2005年10月17日）を貼り出し、プリントを配布する。

- i. 各自分で広告を読み取り、記入をする。発表をさせたあと、教師のまとめた裁判員制度を貼り出す。(裁判員制度とは。裁判員の仕事の内容は)
 - ii. 「あなたは、裁判員として裁判に参加してみたいですか?」を課題とし、参加したいか、したくないか、その理由も含めて自分の考えをまとめ、意見を出し合う。
 - iii. 出された意見から、この制度の抱える問題点は何か考えてみる。
 - iv. 資料「裁判員制度についてどう思いますか?」を提示し、全国の傾向をつかむ。
 - v. DVD「裁判員制度」を見て、感想を出し合う。

《牛徒の姿》

模擬裁判の実施から、生徒は興味を持って取り組み、役になりきって取り組む生徒が多かった。「裁判に参加する方法はないか」の問い合わせに対し、すでに新聞等で裁判員制度を知っている生徒は、すぐに答えた。

新聞広告は端的にわかりやすく制度のことをまとめたため、裁判員制度の概要はつかめたようだ。う。「裁判員として参加してみたいですか」の問い合わせに対しては、生徒の目線からの考えが多く出された。



○授業を通しての感想から (学習カードより)

b. テーマを決め、生徒が関連する記事を読み深め、まとめ、グループや全体で考えを発表し
あう。

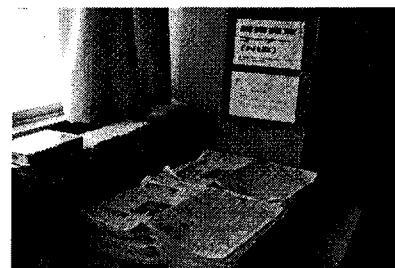
→ 3年公民の政治分野の場面で（後に記載）

③新聞ノートの利用

2 新聞の配置と整理の方法

(1) 図書館の新聞コーナー

図書館の一角に新聞閲覧コーナーを設けた。生徒会文化委員会が管理する閲覧コーナー（2社の新聞）とNIE実践期間中に設けたNIEの新聞閲覧コーナー（多い時で5社の新聞）の2カ所がある。NIEの新聞閲覧コーナーは各学年の社会科係が朝、ポストから新聞を図書館に運び、穴を開けて各社それぞれ古い順に綴じ、閲覧できるようにしておいた。授業などで必要な場合は教室へ持つて行って読んだり、生徒の希望があればコピーできるようにした。休み時間などに何人かの生徒が新聞を読む姿が見られたが、授業以外の場面では積極的に活用できているとは言えない状況である。



3 具体的実践内容

- (1) 単元名 「新聞を読んで、社会情勢を知ろう」(3年公民 特設単元)
- (2) 目標 新聞記事を読む中で、授業で学んだことが実際の社会でどのように関わっているか知ったり、自分と社会の関わりに目を向け関心を持ったりするようになる。
- (3) 単元展開

時	学習活動	教師の支援
第一時	<ul style="list-style-type: none"> ・衆議院議員総選挙の概要、政党（与党と野党及び日本にある政党）について理解をする。 ・調査学習の流れを説明し、どの班がどの政党を調べるか決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる観点を示す。(代表者名、掲げている政策や考え方)
第二時 ～ 第四時	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに各社の新聞記事を使って、政党の考え方や主張をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の見出しを参考にさせる。 ・それぞれの政党の立場が明らかになるように郵政民営化、年金問題、憲法問題、税制など、総選挙の争点として多く出てきているキーワードを示す。 ・難解な言葉があるため、分かる範囲でまとめさせる。
第五時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査したものを発表しあい、政党の考え方や選挙について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表をうけ、質問や難解な語句に対して、解説を加える。

(4) 本時案

①単元名 「新聞記事を通して、政党の考え方や選挙の仕組みを知る」 3年公民

②主眼

衆議院議員総選挙に関わる一連の新聞記事から各政党の掲げる政策や考え方について調べた生徒たちが、発表しあう活動を通して、政党の考え方や選挙の争点について知り、国政に対して興味関心を深められるようになる。

③本時の位置 (5時間扱いの第5時)

次時「民主主義とは何か、資料をもとに考えあう」

④指導上の留意点

- ・各政党の考えを争点に沿って発表させる。
- ・特定の政党を支持するような説明はしない。

⑤展開

	学習活動	予想される生徒の反応	支援・評価 (◆)	時	資料
導入	1 学習内容を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・調査してまとめたものを発表して、わかったことや疑問点をまとめるんだ。 『政党の調査の発表を聞いて、分かったことや疑問点をまとめ、話し合いをしよう』 	<ul style="list-style-type: none"> ・この時間の学習の流れについて説明をする。 	1	学習力 一 ード
展	2 グループ別	◇テーマ別グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・発表は以下のように行う。 		各班の

開 の発表をし、 政党の考え方 について知る。 ①各グループ の発表を聞 き、分かっ たことや疑 問点をまと める。 ②疑問点を出 し、全体で 話し合う。	【与党】 ○自由民主党（4班） ○公明党（3班） 【野党】 ○民主党（1班） ○日本共産党（2班） ○社会民主党（5班）	①各班の発表 (分かったことを含めて) ②質疑応答 ・学習カードへの記入は各班の内 容や印象に残ったことなどを端 的にメモさせる。 ・質疑に対する応答はまず、発表 者に答えさせ、その後、全体に 広げていく。 ・生徒が答えられなかった質問に ついて、補足説明をする。 ・全班発表後、各班の資料や話し 合われた内容をふまえ、学習ノ ートに書き加える。	資料 学習カ ード
まとめ 5 学習カ ードに感想・疑問 などをまとめ、 発表し合う。	・調査をしたり、まとめをしている段階 で、多くのことが分かった。 ・郵政民営化に賛成しているのは与党、 反対をしているのは野党だ。 ・各政党が大事にしていることがわかつ た。	・今後の学習につながるような感 想や疑問点を取り上げ発表させ る。 ◆各政党についての発表を聞 き、自分なりの考えをまと めることができたか。 (学習カード・発言)	学習カ ード 5

(5) 生徒の姿 (単元を通して)

(半九と通じて)
○班団に統べた各政党のかかげる政策や考え方について発表したい。
政党についてまとめてみよう。

八一七日新聞 7/5 (月)

自分の担当する政党について、各々が新聞と向き合い、記事を探したり読む姿が見られた。

難解な語句
は友だちや教
師に聞いたり
して、カード
にまとめる
姿も見られた。

上の資料は、

生徒がまとめた学習カードの一部である。



○授業を通しての感想から

選挙前後で、あれだけたくさん報道されていたのに、それぞれの内容は詳しく分かれていなかった。今回の発表で、各党の考え方などが細かく分かり、比較などができる。興味が持てたので（関わりがあるから）良かったと思う。新聞で調べたけれど、たくさんのがまとめられているので、読解に苦労した。親しめるように少しでも読んでいこうと思った。【K.N】

今の日本は8つの党があって、多党制だけれども、この先は自民党と民主党の2大政党になるのかと思うと、他の党の意見はどうなるかと思う。各党でいろいろな考えがあるが、どれが実行されるか、国民はどの位政党の考えに賛否をする権利があるのかと思った。今は自民党の権力が一番強いと思うが、全て自民党の考えを実行することになってしまうのか？と思った。各党のいろいろな工夫と日本を良い国にするために国会議員に認められ、国民にも支持されるような改革をそれぞれ目指しているんだなあと思った。【T.M】

（6）成果と課題

今年度は、総選挙があり、新聞やニュースなども連日、選挙についてまた、各政党の主張が伝えられていた。3年生の公民の学習においても、国政や選挙、政党についての単元があり、新聞記事は生きた資料として活用することができる。

一つのテーマに対して、各新聞社の伝え方は違っている面もあるが、社会情勢を把握するには有効であったと思われる。学習カードからも分かるように多くの生徒は、難解な語句に苦戦しながらも、分かる範囲で各政党の主張を個別そしてグループでの追究を通して深めることができた。

4 実践の感想と今後の課題

新聞を授業で活用することを通して、生徒が社会情勢をより身近に感じられるようになったという印象を受けた。難解な語句や文の量から、新聞をとかく敬遠してしまうことが多いが、テーマを決め、分からぬがらも、とにかく読みはじめ、友達や教師と記事の内容を明らかにしていくことで、社会情勢に興味、関心を持てるようになってくることをこの実践を通して感じることができた。

NIE のアンケートを本校でまとめてみた結果、スポーツ欄やテレビ欄を見る生徒は相変わらず多いが、中には政治面や社会面に注目する生徒が増えたり、「新聞を扱った授業は面白いですか」の質問には大変面白い・少し面白いも含め、80%の生徒は面白いと答えている。時間の制約もあり、新聞を扱った授業をきちんと行おうとすると難しい面があるが、今のところは授業の中で、単元に関わった記事を取り上げていくところを大事に考えたい。

今後の課題の一つに、学校生活の中でいかに生徒が新聞と関わりをもつことができるかと言う点がある。新聞閲覧コーナーの利用促進、記事をスクラップし、それについてのコメントを書き回していく新聞ノートの活用についてさらに考えていきたい。